



8月3日(木)4日(金)5日(土)6日(日) アーバンナイトカーニバル

GIII

実力者が揃って激戦!!

「アーバンナイトカーニバル(GIII)」は8月3日から6日まで4日間開催される。今シリーズはSS選手が不在も、各地から好メンバーが揃い、激しいレースが繰り広げられるだろう。

ライン的に有利なのは原田研太郎(徳島98期)が先頭の西勢か。後位を井上昌己(長崎86期)と園田匠(福岡87期)の九州コンビが固める。新山響平(青森107期)―山崎芳仁(福島88期)も気合い十分。真向勝負を挑めば捲りシヤブな石井秀治(千葉86期)の出番。深谷知広(愛知96期)と脇本雄太(福井94期)はそれぞれ単騎戦になるが、破壊力十分の脚力を持つている。

また、最終日の6日には、新設のプロツクセブン(7車立)が行われる。ルールの違いは競輪と同じだが、ラインを組むかどうかは各選手の自由。もちろん2車、3車のラインが形成出来れば展開的にも有利に運べる。

S級注目選手

原田 研太郎
徳島98期



「初日は1回仕掛けてから外へ振り、自分でスピードを落とすから踏み上げた形で。自分のタイミングではなかった。」

もう少し早く仕掛ければ(三宅)達也さんまで連れ込めたかもしれない。少し重たい感じもあったかな。準決勝は前を取って遅ければ突っ張る作戦、岩津さんに入れて貰ったけど、後は中距離を加速するだけで脚に余裕はなかったです。決勝戦ではしっかりと自力勝負が出来た様に」と前回伊東サマーナイトフェスティバルの意気込みを語っていた三谷豊(奈良109期)―村上義弘(京都73期)に単騎の岡村潤(静岡86期)が続き、4番手の位置をキープするも、新田祐大(福島90期)の驚異的な捲りの前に成すすべなく、課題の残った開催となったが、今回までに立て直す時間は十分あり万全の調整で臨むはず。

深谷 知広 愛知96期



「久留米記念では自分の良い面、悪い面のどちらも出たと思う。その後に出場したジャパントラックカップでの落車は、右側部打撲擦過傷。心配はあったけど、伊東のサマーナイトフェスティバルを走れる状態には戻ってきたつもり」と前検日に自己のコンディションを分析している。

初日特選は赤板から猛然と飛び出した渡邊雄太(静岡105期)―郡司浩平(神奈川99期)に主導権を取られ、後方からの巻き返しも届かず3着。準決勝は正攻法の原田研太郎(徳島98期)を、打鐘から二気にかけて追走浅井康太(三重90期)とワンツーを決め、V候補筆頭の平原康多(埼玉87期)を撃破。

「走っている時には落車の痛みを感じないし、大丈夫だと思えます。2日目は初日の反省を生かして仕掛ける事が出来た。チャンスは逃さない様に頑張りたい」と決勝戦は4着という結果も、シリーズ通しての動きは上々だ。

石井 秀治 千葉86期



「前回からは疲れを取りながらの調整で、その後少し脚に刺激を入れながら仕上げた。小松島記念から使っているフレームはダッシュ力に重点を置いて、今回の伊東で手応えを掴みたいですね」とサマーナイトフェスティバル(GII)で自転車の感触を確認。初日予選は赤板から根本哲史(秋田97期)と山田久徳(京都93期)の先行争いで絶好の流れ。鐘4角から騎に仕掛け同期の地元岡村潤(静岡86期)とワンツーインラッシュ。前がやり合ってくれたし、展開が向きました。フレームが硬くて今の様な気がしたけど、感じ良く踏めましたね」と迎えた準決勝戦は、南関単騎のレース。絶妙のタイミングで捲りを放つが、1Cで水澤剛(青森91期)の牽制を受けて根田空史(千葉94期)最終1クして共倒れという結果に終わっているが、今開催までは日にも十分にしっかり立て直しているだろう。



新山 響平 青森107期



「小松島記念が終わってからの中2日しか空いていなかったけど、その間も練習はしていましたから。ただ、調整無しなので疲れがどの程度溜まっているかは分からないが、いつも通りのレースをしたい」と前回武雄(FI)の初日特選に意気込みを見せていた。打鐘で先頭に立った金子幸央(栃木101期)を4角から巻き返し(岡山95期)に合されてしまっ結果は5着。準決勝戦は同期の山岸佳太(茨城107期)をバックから捲る展開に。若澤辰弘(茨城95期)の強烈なプロックに遭いバランスを崩すが、立て直して3着をキープ。決勝戦はパークキンスオーストラリア(ポス(オランダ))という世界のトップレーサーを相手に結果を出す事は出来なかったが、見せ場を作っている。

阿部 大樹 埼玉94期



FIでの活躍は言うまでもないが、最近では記念競輪でも好結果を残せる様になっている。小松島記念(GIII)では3度の連対も、決勝戦は最終バックで落車。不安要素がある中で迎えた前回小倉(FI)の初日予選は、鐘過ぎスタートした工藤彦彦(岡山97期)―石丸寛之(岡山76期)の岡山勢の3番手をキープするも、バベク(千葉)に先制され仕掛け所を逃してしまっ。2日目は打鐘でハナに立った山崎翼(大分95期)をホームから二気に巻き返し、後続を大きく引き離して優勝と、初日の不安を払拭。最終日は徹底先行の三田村謙祐(大阪96期)に主導権を取られ、後方8番手という位置も、終2Cから目の覚める様な強烈捲りを放ち、連勝で締め括った。

URBAN BANK
かわさきケイリン

選手	予想	名	府県	期別	級別	1着	2着	3着	着外	権	失格	出走数	勝率	連対率	3連対率	H数	B数	競走得点
園田 匠	▲	深谷 知広	愛知	96期	S1	6	6	6	0	0	0	24	24.0	44.0	56.0	0	0	114.26
松谷 秀幸	○	井上昌己	長崎	86期	S1	5	5	4	0	0	0	12.9	29.0	41.9	8	12	110.45	
新山 響平	◎	原田研太郎	徳島	98期	S1	10	7	5	0	0	0	37.0	38.7	70.3	16	4	114.62	
脇本 雄太	×	石井 秀治	千葉	86期	S1	5	6	6	0	0	0	16.1	52.3	45.1	4	6	109.38	
脇本 雄太	×	石井 秀治	千葉	86期	S1	5	6	6	0	0	0	22.5	37.5	45.1	4	6	111.96	
脇本 雄太	×	石井 秀治	千葉	86期	S1	5	6	6	0	0	0	23.8	42.1	45.1	4	6	112.33	
脇本 雄太	×	石井 秀治	千葉	86期	S1	5	6	6	0	0	0	18.7	37.5	45.1	4	6	112.40	
脇本 雄太	×	石井 秀治	千葉	86期	S1	5	6	6	0	0	0	31.5	50.0	70.8	0	12	113.47	
脇本 雄太	×	石井 秀治	千葉	86期	S1	5	6	6	0	0	0	25.0	50.0	70.8	0	12	117.54	
脇本 雄太	×	石井 秀治	千葉	86期	S1	5	6	6	0	0	0	25.0	50.0	70.8	0	12	117.54	